

## 平成 26 年度 第 4 回 大口町子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成 26 年 12 月 19 日(金) 09:30～12:00

場所：大口町健康文化センター 1 階 多目的室

### 1. あいさつ

#### 〈会長〉

○こちらに来る際、交通渋滞に巻き込まれたが、本日の会議が渋滞にならないよう、よろしくをお願いします。

#### 〈健康福祉部長〉

○今年も 10 日あまりというお忙しい中でのご出席となりました。子ども子育て会議については、来年 2 月にパブコメというスケジュールとなっており、本日の会議は最終的な素案についてお諮りいただくこととなりますので、よろしくをお願いします。

### 2. 議題

#### (1) 今後のスケジュール及び平成 27 年度放課後児童クラブについて

##### 〈事務局より下記について説明〉

- ・今後のスケジュール
- ・平成 27 年度放課後児童クラブについて（案）

#### 〈会長〉

- 利用料の件について承認いただけるか。（異議なし）
- 土曜日の利用開始時間の変更についてはいかがか。

#### 〈委員〉

○児童クラブが学校の中にある場合、利用に際しての電気代や給湯用のガス代はどのようになるか。

#### 〈福祉こども課長〉

○メーターを別々に設置して児童クラブ分と学校分は別扱いで、当方側に請求が来る形になっている。学校の予算とは別である。

#### 〈委員〉

○一般の子は入れないのか。

#### 〈福祉こども課長〉

○一般来場者は、休みが 8 時 30 分、通常の日は 9 時 30 分で変わらない。あくまで、児童クラブの中での時間変更である。先生方の体制については、内容を充実させるために検討しているところである。

#### 〈会長〉

○土曜日の利用開始時間の変更について承認いただけるか。（異議なし）

#### (2) 「子ども・子育て支援事業計画」の策定に関する子育て・青少年育成関係諸団体へのインタビュー調査の報告について

##### 〈事務局より下記について説明〉

「子ども・子育て支援事業計画」の策定に関する子育て・青少年育成関係諸団体へのインタビュー調査 結果概要

〈副会長〉

- 「親子ふれあい広場への参加が増えない。年間 2,000 円の費用もネックとなっているようだ」とあるが費用はいただいていないので、訂正してもらいたい。

〈委員〉

- 「登下校時の交通安全」にある南小学校は学校まで遠く危険な道も多いとあるが、北小学校も同様に危険なので追加してもらいたい。
- 北小学校の近くにパチンコ店ができたが、その駐車場からの車の出入りが危険なので、追加してもらいたい。

〈委員〉

- 月 2 回開催している P T A の常任委員会とあるが、常任委員会は月 1 回もない。月 2 回の部分は削除してもらいたい。

〈委員〉

- 台風などの悪天候時の登下校のルールについては、混乱があったことから、何分後に出発するか等の指示が来るようになり改善された。

〈委員〉

- 南児童センターは、ここ 5～6 年の間、利用数が減少している。理由はわからない。

〈児童厚生員〉

- 元気クラブ主催の行事は 20 名の募集であるが、これは常に一杯となる。しかし、土曜日の利用は全般的に少ない。通常は放課後児童クラブが利用している。通常の児童は放課後、塾などに行っていることから少ないと感じられるが、放課後、特別に利用者が少なくなったということはない。

〈委員〉

- ドアノッキングについては、民生委員・児童委員が家庭訪問して問題があれば行政につながるというものである。この事業について、継続的な支援体制が確立されていないのではなかろうかとあるが、具体的に説明願いたい。

〈副会長〉

- ドアノッキング活動がその後どのようにつながっているかが見えてこない。具体的な状況について教えてもらいたい。

〈委員〉

- 個人情報の問題もあるが、しくみそのものについては、機会を見つけて示したいと考える。

〈委員〉

- 状況については、知りたいと思う。

〈会長〉

- 全体的な取組状況について、市民にも分かるようにしてほしい。

〈事務局〉

- この件に関連して、赤ちゃん訪問事業に関しては、担当者によって現場での対応が違うことがあるといった言があったことも補足しておく。

〈会長〉

○数の問題ではなく、このような状況があるということ自体が問題である。そういった問題にどのように対応すべきかを考えなくてはならない。

### (3)「計画の基本理念と基本目標（第1－3の部分）」について

#### 〈事務局より下記について説明〉

・「基本理念と基本目標」

#### 〈委員〉

○資料中、「進学期、就労期にかけて大きなギャップがある」という部分があるが、この書き方は、大きなギャップがあることが悪いことのように書かれている。

○資料中、「“小1プロブレム”や“中1ギャップ”が問題化しつつあります」とあるが、どのような問題があるかを具体的に示してほしい。

#### 〈福祉こども課長〉

○一般論として、そのような問題が発生しないようにするため、こういった部分にも視点を持ちながら、継ぎ目のない基本的な計画を立てていきたいと考える。教育サイドからは、こういった問題が発生しないように取り組んでいるとの報告は受けているが、常に発生しない体制は維持したいと考える。

#### 〈委員〉

○自身の現場では小1プロブレムといった問題はない。このような表現をされると、あたかも問題があるかのようにとられる。保育園から小学校に上がれば世界が違うのであるからギャップがあるのは当然である。我々は、成長の過程における教育をしているのであって、問題を解決するためにしているのではない。文言について検討してもらいたい。

#### 〈会長〉

○大きなギャップという部分については、障がいがある子どもについての現状ということであるが、小1プロブレムについては無いとのことであった。むしろ、問題解決に向けた取り組みをしているのであるから、これらの文言についてはいかがなものかという意見であった。貴重な意見として受けとめたい。

#### 〈委員〉

○学校は障がいの有る無しで分けはしていない。

○学校教育は問題を解決するためにやっているのではない。

#### 〈会長〉

○継ぎ目のない支援というのは、障がいがある子ども達も、もっと受けやすくしたいという思いを込めたものであるが、この文言については検討させていただく。

○資料の基本理念の中で「ないでしょうか？」という問いかけがあるが、この部分は明確な文言にしてはどうか。

○資料中段部分にある子育てが「母親」だけに限定されているが、「保護者」にしてはどうか。

○資料中、保育はサービスとしているが、この考え方についてはどうか。

#### 〈保育長〉

○保育をサービスと捉えることについては、自身としても違和感を覚えるが、受ける側からはそのように捉えられているのかと思う。

#### 〈会長〉

○国や行政機関でもサービスと紹介しているが、大口町も同調するのか、あるいは、子育ては信念を持った取り組みだとして、サービスという文言を削るのかがいたい。

〈保育長〉

○サービスという文言は削りたい。

〈副会長〉

○「おおぐちっ子まつり」とあるが、ここはどういった表現にするのか。

〈事務局〉

○「子育て文化の桜咲く」といった表現が抽象的であることから、子育てを象徴的に捉えてもらえる表現として掲載した。載せるということであれば、新しい時点のものを掲載するが、これに替わるものがあれば別の表現にしたいと考えるので、意見を頂戴したい。

〈保育長〉

○「おおぐちっ子まつり」は様々な思い入れのある、子育てを象徴するイベントであることからこの部分は残してほしい。

〈事務局〉

○先ほどの「ないでしょうか？」についてであるが、この部分は前回と変わっていない。起稿の際、断定的表現よりは投げ掛け型の表現の方がソフトであり、それとなく気付かせることができるという意図で、こちらを選択したと記憶している。

○子育てが「母親」だけに限定されている件についてであるが、この文脈の中での表現であるから、この部分を「保護者」に替えることは意味合いが変わってしまう。

〈会長〉

○「母親」だけの表現については、この部分が地域社会との連携を謳っているのであるから、「母親」だけに限定しないほうがよいという考えで述べさせてもらった。

○「ないでしょうか？」については、この部分が基本理念を謳っているのであるから、投げ掛け型の表現ではなく、確固とした委員会の姿勢を示す表現のほうが良いと考える。

〈委員〉

○○○は学力が低いとなっているが、問題点があるのであれば、具体的に明記してほしい。

〈委員〉

○自身は○○○の情報を把握していないが、学力をテストの点数だけで捉えているのであれば、視点がずれていると思う。単なる噂レベルのことなのかははっきりしないが、よく聞く話では塾からそういった内容がもたらされている。この中で答えている人の考える学力の定義がはっきりしないので答えようがない。

〈事務局〉

○このヒアリングに自身も立ち会ったが、ここで述べている学力は総合的な学力ではなく進学を主眼とした学力を意識しての発言だったと記憶している。本議論の趣旨にそぐわない内容ではあると感じたが、ヒアリングの結果として掲載した。

〈委員〉

○自身も○○○について良くない評判を耳にしたが、そういった声があるのであれば問題点として捉えるべきではないか。

〈委員〉

○そういった声があることについては、その内容を真摯に受け止め、本会議ではなく教育

委員会で検証を含め、対応させていただく。

〈委員〉

- アンケートをとらなければ、このような意見が上がらないこと自体に問題がある。〇〇側は情報開示を行い、行政はその情報を積極的に情報発信すべきではないか。
- この問題を子育てという視点で見たとき、親御さん達の側から学校側にはたらきかけるという姿勢も必要だと思う。

〈会長〉

- 本計画において、大口町としてどのように子育てを行うのかということは大きな命題であるから、各所から意見を出してもらい活発に討議することは有益なことだと思う。

〈委員〉

- 「継ぎ目のない支援」における保育園の総合保育についてであるが、以前、〇〇保育園で聞いた話として、民間になった中保育園は障がい児の受け入れについて、大口町と話し合っって受け入れの要否を決めるということであった。その後どうなったのかを知りたい。
- 保育園での総合保育の有無は、園児が小学校に上がった際、障がい児への接し方等に影響を与えることになるが、大口町は民間の保育園でも総合保育の形をとるのか否かについて説明願いたい。

〈保育長〉

- 民間の保育園についても、障がい児の受け入れは行っており、今後も引き続き行ってもらえるようはたらきかける。
- 大口町の保育は総合保育を基調としていることから、今後も継承していきたいと考える。

〈委員〉

- 聞き取り調査の中で、託児所がわりに使っているとあるが、こういったサービスに頼りすぎる姿勢に不安を感じる。サービスを増やすことは、子育てを行うべき母親、保護者という意識を希薄化させてしまうのではないだろうか。子育て支援の名目で単にサービスだけを増やすことには疑義を感じる。子育ての主体は親であることを念頭に置いて議論すべきである。
- 文章中の誤字、脱字についてであるが、例えば、「持つ」は漢字であったり平仮名であったり、「取組」が「取り組み」になっていたりする。また、全体的に文章が長いと感じる。

〈会長〉

- 誤字、脱字等については直接、事務局に上げてもらいたい。

〈委員〉

- 「小1の壁」という表現があるが、「小1プロブレム」か「小1の壁」のどちらか一方に統一したほうがよいと思う。

〈事務局〉

- 「小1プロブレム」と「小1の壁」は内容の違う問題である。

〈委員〉

- 誤解を生まないように分かりやすく書いてほしい。

〈会長〉

- 本議題である基本理念と基本目標のこの部分については承認いただけるか。(異議なし)

#### (4)「子ども・子育て支援事業計画（第2章部分）」について

##### 〈事務局より下記について説明〉

- ・「第2章 子ども・子育て支援事業計画」

##### 〈委員〉

- サービスを増やすのであれば親の教育も必要と考えるが、親の教育については働く現場で行うのがよいと思う。企業へのはたらきかけを積極的に行ってほしい。

##### 〈委員〉

- 妊産婦健診ではなく妊婦健診だけになっているのはなぜか。また、実施時期の部分は「妊娠期・産後」となっている。

##### 〈事務局〉

- 実施時期の「産後」は訂正させていただく。
- この章で産婦を外しているのは、計画を愛知県がつくっていることから、ここに産婦を入れると数値が変わるためである。
- 次世代支援計画の章には、大口町の独自政策ということで妊産婦として掲げている。

##### 〈会長〉

- 前回、居宅訪問型事業、家庭的保育事業における有資格者の割合に関する話があった。今後、これらに類する事業者が出てきた場合を考慮し、教育内容の安定、質の確保といった見地から、有資格者の割合等に関する文言の追記が必要と考える。

##### 〈福祉こども課長〉

- そういった内容の文言を付け加える形で修正を図りたい。

##### 〈会長〉

- 議題内容については承認いただけたということによろしいか。（異議なし）

(5分間休憩)

#### (5)「次世代育成支援行動計画（第3章部分）」について（2分科会：Aグループ『基本目標1・2、Bグループ『基本目標4・5』）

##### 【Aグループ】

##### 〈事務局より下記についての説明〉

「第3章 次世代育成支援行動計画」（基本目標1・2）

##### 〈委員〉

- 母子保健手帳の交付時に、説明会兼交流会を行い、各種の相談・指導も行っている。仕事の都合で月2回の説明会への参加が難しい方に対しては、随時で手帳の交付も行っている。ただし、常に専門のスタッフが常駐しているわけではないので、指導内容が限られてしまい、母親同士の交流も不足しがちである。
- 在留外国人に対しても、丁寧に対応している。

##### 〈事務局〉

- 育児不安を抱えている家庭に対しては、「赤ちゃん訪問事業」で、助産師や地区担当の保健師が把握するとともに、健康診査でも把握するなど、きめ細かくリスクを把握して相談支援するように努めている。

〈副会長〉

○訪問や健診の結果、子どもの障がいなどがわかった場合、母親のショックは非常に大きいので、声のかけ方にも細かい配慮が求められる。

〈委員〉

○赤ちゃん訪問とドアノッキング事業を合わせて、計3回訪問するというので、かなりきめ細かく手厚い対応ができています。

○ドアノッキング事業は、地域の民生委員との顔合わせの機会にもなっており、地域と母子のつながりづくりにも効果を発揮している。

〈委員〉

○主任児童委員としては、今はハイリスクの家庭も少なく、とくに問題は感じていない。

○子育て支援団体さんから、子育て支援に関する情報をもらえれば、訪問する母子に提供・紹介することも可能になる。

〈委員〉

○民生委員は公務員の位置づけがあり、ルールに基づいて個人情報も厳格に取り扱っている。

○子育て団体にも、必要に応じて支援をしてもらえるとありがたい。ただ、地元のスタッフばかりではないので、1回の訪問後の継続的な関係をつくるのが難しい面もあるのではないかと。

〈委員〉

○主任児童委員や民生委員と子育て支援団体が、もっと丁寧にお互いに情報を伝え合う取組が必要ではないかと。

〈副会長〉

○子育て団体も、もっと積極的に情報を把握するべきかなと感じる。

【Bグループ】

〈事務局より下記についての説明〉

「第3章 次世代育成支援行動計画」（基本目標4・5）

〈委員〉

○「事業の現状」の中で、国、県、町の事業が混在し、曖昧な書き方となっている。分けて記載してほしい。

○「小1プロブレム」については、言葉そのものを使ってほしくない。もし、あるとするならば具体的な内容を記載してほしい。

〈事務局〉

○「小1プロブレム」については、基本的にこの文言を使わない方向で検討する。

〈委員〉

○他の市町村では私立幼稚園の施設に対する支援がされているが、大口町は一切ないので検討願いたい。

〈会長〉

○具体例はあるか。

〈委員〉

〇〇〇では、年間 170 万円の助成が行われている。

#### 〈保育長〉

〇以前はあったと聞いている。無くなった経緯等についても確認する。

#### 〈事務局〉

〇「事業の現状」の中での国、県、町の事業が混在しているとの意見については、県が直接実施している事業は掲載していない。これは国の制度に基づき町が実施している事業を掲載している。

#### 〈委員〉

〇資料中、学校教育のところ、県と町を同じレベルで記載している部分である。

#### 〈会長〉

〇気になる部分については、具体的な箇所を事務局に上げてもらいたい。

〇資料中、「現状と課題」の文章の並びについてであるが、「幼児期は…」とある部分を最初にもってきてはどうか。

〇資料中、「また、4園の保育園においても…」の文章中「幼稚園教育要領」という文言については、必要ないので削ったほうがよい。

#### 〈委員〉

〇資料中、「誰もが楽しく学べる学校教育の推進」と表題にあるが、「楽しさを感じる」、「楽しさを知る」などの表現の方がよいのではないか。

〇資料中、「現状と課題」中に「学校の果たす役割がとて大きくなくなっています」とあるが、「学校の果たす役割が重要です」としてはどうか。

〇資料中、「現状と課題」中の「子どもの教育の責任について学校、家庭、地域が役割分担をしつつ」とあるのを「それぞれの役割を果たすことで」もしくは「それぞれが共同しながら」に替えてはどうか。

〇資料中、「推進方策」中の「地域住民との…」の文章については、前半部分と後半部分が内容的に相容れないため、「特色ある学校づくりを進めます」の部分「地域と共に学ぶ学校づくり」に替えてはどうか。また、「事業の現状」における「特色ある学校づくり」の表題も「地域と共に学ぶ学校づくり」とし、「特色ある学校づくり」を記載するのであれば、別項目を起こすべきだと思う。

〇資料中、「特色ある学校づくり」の中で、図書館教育と地域について併記しているが、どちらか一方に絞った書き方のほうがよいと思う。

〇資料中、「小・中学校への教員の派遣」の中で、「子どもの習熟度別に応じて…」とあるが、こういったことは行っていないので、「子どもの習熟度別に応じて」の文言は削除してほしい。

〇資料中、「小人数学級の検討」の中で、「クラス」とあるが、この言葉は高校以上しか使わないので「学級」に替えてもらいたい。

〇資料中、全体として、「児童・生徒」と「子ども」が混在しているので内容別に統一すべきではないか。学校教育に関する部分は「児童・生徒」で統一したほうがよいと思う。

#### 〈委員〉

〇資料中、「推進方策」の中で、ティームティーチングの記載があるが、ティームティーチングを必要とする子ども達が増えてきており、通常学級にしながら支援が必要な子ども



は約6%いる。西小学校には対応する学級があるものの、他校にはないのが現状である。  
今後、そういった子ども達への対応を内容とする支援の充実が望まれる。

〈会長〉

○ただ今の件については、次回の全体会議の際にもう一度意見をいただくということによろしいか。

〈事務局〉

○先ほど「学ぶ楽しさを知る」との指摘があったが、事務局サイドとしては、文言の部分修正を行うことによる文章の推敲や事業がその内容を充足しているか等の検証作業が発生するため再確認させていただきたい。

〈委員〉

○文章の修正ということ言えば、基本目標の「親と子がともに学び育つ環境づくりを支援する」とあるが、親のことについては何も書かれていないので、大幅に修正の必要が出てくるのではないのか。

〈会長〉

○委員の発言にあった「特色ある学校づくり」や「クラス」を「学級」に訂正する等の部分修正を含め、一般的に通用する中身にしていくということによろしいか。(異議なし)

〈委員〉

○アンケートや報告書について気になっている点がある。親のマナーの悪さは筆舌に尽くしがたいものがあるが、親の教育などについては一切書かれていない。子どもの教育に関し、学校側だけに押し付ける姿勢にも問題があり、共助になっていない。以上のことから、文章中に「町民一人ひとりが」や「誰もが」といった文言を散りばめてほしい。

〈会長〉

○次回の会議も今回同様の形式で実施するので、それぞれ専門分野の視点で今回の結果について精査いただき、次回、それを持ち込んでいただきたい。

○会議は時間の制約があることから、十分に意見を出し尽くせていない感がある。意見のある方は事務局に出してほしい。

## 2. その他

〈事務局より次回の会議について説明〉

以上